

2025 年 8 月 27 日

「RICOH 受領請求書サービス 原価管理」を提供開始 ～AI 明細入力アシスタント機能により、建設業における原価管理業務を効率化～

リコージャパン株式会社(社長執行役員:笠井 徹)は、建設業の原価管理業務を効率化する「RICOH 受領請求書サービス 原価管理」を 2025 年 9 月 19 日に提供開始します。また、提供開始に向けて本日よりトライアルの受付を開始します。

本サービスは株式会社リコー(社長執行役員:大山 晃)が開発した AI 明細入力アシスタント機能により、建設業における原価管理の入力業務を削減し、工事ごとの正確かつ迅速な原価把握を支援します。

「RICOH 受領請求書サービス 原価管理」は、請求書・領収書に記載された商品名、数量、単価、金額に加え、規格、単位、工事現場名など建設業に特化した項目も AI によって自動的に即時データ化ができます。そのため、システム等への手入力が不要となり、迅速な原価把握・分析が可能となります。

データ化された明細は AI により、工事の原価管理に必要な項目に振り分けられることで、仕入データが自動で生成されます。

生成された仕入データは、CSV データ連携により、お客様が使用する原価管理システムと連携可能です。また、「RICOH 受領請求書サービス 原価管理」と、株式会社建設ドットウェブ(代表取締役 三國 浩明)が提供する建設業向けの原価管理システム「どっと原価 3」との API 連携も開始します。これにより、工事マスター情報などをリアルタイムで反映するなど、仕入伝票のシームレスな連携も可能となっています。

「RICOH 受領請求書サービス 原価管理」活用により、原価管理業務の約 85%の工数削減^{*1}が可能で、手作業に伴う負担や人為的ミスの軽減を実現します。

リコーは今後も人にやさしいデジタルで“はたらく”に寄り添い、お客様が“はたらく”歓びを感じる、そのお手伝いをします。

^{*1} お客様へのヒアリングをもとにしたシミュレーション結果。リコージャパン調べ。

リコージャパン株式会社 <https://jp.ricoh.com/companies/ricoh-japan>

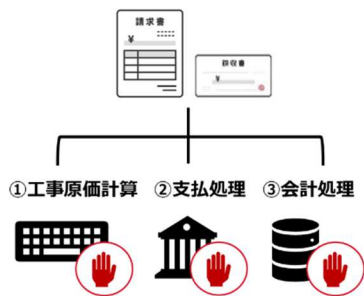
報道関係のお問い合わせ先 リコージャパン株式会社 コーポレートコミュニケーション部 広報・ブランディンググループ

E-mail : zic_rjced@jp.ricoh.com

お客様の問い合わせ先 お問い合わせフォームhttps://www.secure.rc-club.ricoh.co.jp/cloud-ocr_mitsumori_form

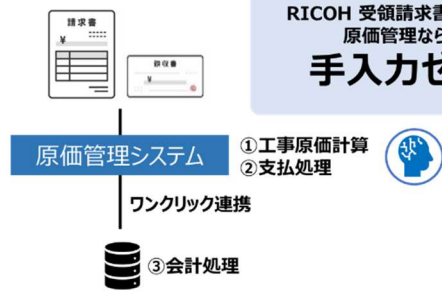
before

同じ金額を異なる目的で複数回入力・転記。
入力負荷が高く、ミスも心配…



after

AIが作成した仕入伝票を原価管理システムに連携。
確認だけで、業務が完了！



導入イメージ

価格(消費税別)

コース名	RICOH 受領請求書 サービス 原価管理 月額 100 枚コース	RICOH 受領請求書 サービス 原価管理 月額 200 枚コース	RICOH 受領請求書 サービス 原価管理 月額 500 枚コース
初期 費用	5,000 円/1 契約		
基本 料金	20,000 円	34,000 円	75,000 円
超過 料金	200 円/枚	170 円/枚	150 円/枚

背景

総務省の労働力調査^{*2}によると、建設業では 1997 年をピークとして就業人口の減少が続いており、他産業に比べて労働時間が長く、就業人口の高齢者化が進行してします。さらに、建設資材や人件費の高騰により、限られた人員での作業と工事利益の確保が事業継続の要になっています。

建設業において、原価管理は経費の削減や利益確保など健全な経営を行うため重要な業務です。建設工事における外注費や材料費などの原価を適切に計算し管理することで、利益の減少を防ぎ、赤字の回避や財務の健全化につながります。しかし、原価管理を適切に行うためには、取引先から受け取った請求書や領収書の明細に書かれた商品名や規格、単価、それぞれの工事名などの多岐にわたる情報を原価管理システムに正確に入力しなければなりません。そのため、原価管理システムを導入していても、厳密な原価管理ができていない企業も少なくありません。

*2 <https://www.stat.go.jp/data/roudou/sokuhou/nen/ft/index.html>

AI 明細入力アシスタント機能の概要

① 明細データ化

建設業における請求書・領収書は、現場によって記載内容がさまざま、部材によって異なる購入単位や量販店レシートの複雑な表記など、明細の読み取りが難しい帳票が多く存在します。

本サービスでは、生成 AI を活用し企業や担当者ごとの処理ルールに合わせて OCR 結果を最適化する「適応型 AI-OCR」技術により、請求書・領収書のフォーマットにかかわらず、原価管理に必要な商品名、金額、現場名などの明細情報の読み取りと即時データ化が可能です。

② 修正支援

行数の多い明細の場合、OCR 結果の修正が負担になる場合がありますが、本サービスではユーザーが1行目を修正すると、AI が修正内容をもとに2行目以降の修正内容を作成、即時反映します。これにより、行数の多い明細でも効率的な修正作業が可能になります。



③ 仕入データの自動生成

各明細に対応する工事を AI が自動で判別します。お客様によるマスター入力を AI が学習することで、材料費や経費、労務費などの要素や商品コードなどを明細ごとに自動で振り分けし仕入データを作成します。作成された仕入データは CSV や API 連携で、原価管理システム内に仕入伝票としてまとめて登録されます。

トレード帳票 DX シリーズについて

お客様に本業に集中できる働く環境をご提供するため、帳票処理業務の生産性を向上するソリューションを各種ラインアップしています。企業間取引に必要な帳票処理をデジタル化・自動化することで、お客様の業務負担を軽減します。

<https://www.ricoh.co.jp/products/concept/trade-dx>

「RICOH 受領請求書サービス」

請求書を AI-OCR でデータ化し、仕訳・支払業務を効率化。

<https://www.ricoh.co.jp/products/list/ricoh-invoice-received-service>

DX エコシステムについて

DX エコシステムは、リコージャパンとアプリケーションベンダーが一体となってお客様の業務フロー改革を実現する価値創出の仕組みのことを指します。複合機をはじめとしたリコーのエッジデバイスを活用することで紙情報のスムーズなデジタル化を実現します。さらに、リコーとアプリケーションベンダーのソリューションをデータ連携させることで、それぞれの強みを生かしながら、お客様の経営課題解決に伴走いたします。

<https://www.ricoh.co.jp/products/concept/dx-ecosystem>

■関連情報

RICOH 受領請求書サービス製品ページ

<https://www.ricoh.co.jp/products/list/ricoh-invoice-received-service>

トレード帳票 DX シリーズ

<https://www.ricoh.co.jp/products/concept/trade-dx>

DX エコシステム

<https://www.ricoh.co.jp/products/concept/dx-ecosystem>

■関連ニュース

生成 AI が企業・担当者ごとの帳票処理ルールに合わせて OCR 結果を最適化する「適応型 AI-OCR」を開発

https://jp.ricoh.com/release/2025/0508_1

* 社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

｜ リコーグループについて ｜

リコーグループは、お客様の DX を支援し、そのビジネスを成功に導くデジタルサービス、印刷および画像ソリューションなどを世界約 200 の国と地域で提供しています(2025 年 3 月期グループ連結売上高 2 兆 5,278 億円)。

”はたらく”に歓びを 創業以来 85 年以上にわたり、お客様の“はたらく”に寄り添ってきた私たちは、これからもリーディングカンパニーとして、“はたらく”の未来を想像し、ワークプレイスの変革を通じて、人ならではの創造力の発揮を支え、さらには持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

詳しい情報は、こちらをご覧ください。

<https://jp.ricoh.com/>